

ルワンダ月報（2022年10月）

※以下は、明示的に記載されたものを除き、ルワンダ通信局（Rwanda News Agency）の記事のとりまとめ。

1. 内政・外政

- 先月30日、カガメ大統領がシンガポールを訪問、ハリマ・ヤコブ大統領、リー・シェンロン首相と各々面談。二国間協力関係の強化について協議。（TARIFFA）
- 同30日、ブルンジ政府、ルワンダとの国境開放を否定、ルワンダが2015年のクーデター容疑者を引き渡すまでは、ルワンダと良好な関係は不可能であると強調。ルワンダ政府も国境開放を否定。（Igihe）
- 5日、現在ザンビア国防軍コマンド・スタッフ大学で学ぶザンビア国防軍（ZDF）の上級将校13名が、ルワンダ国防軍のジャン・ボスコ・カズラ参謀長と面談。
- 11日、キガリ・コンベンションセンターで、世界各国の議会から1000人以上の代表を招集し、列国議会同盟（IPU）の第145回総会開幕。本総会では「より強靱で平和な世界のための変化の原動力としてのジェンダー平等とジェンダーに配慮した議会」がテーマ。
- 12日、ビルタ外務・国際協力大臣は、アディスアベバで、エチオピアのハッセン副首相兼外務大臣と二国間会談を行い、二国間の協力強化に関して協議。
- 12日、フェリシアン・カブガ（Félicien KABUGA）の裁判が2022年9月29日に国際刑事裁判の残存メカニズムのハーグ法廷で開始。被告人はジェノサイド1件、ジェノサイドを行うための直接的かつ公的な扇動1件、ジェノサイドを行うための共謀1件、人道に対する罪3件の6件にて起訴されている。
- 12日、カガメ大統領は、アフガニスタンで唯一の全寮制女子校であるSOLA（School of Leadership in Afghanistan）アフガニスタンの理事と創設者ラシク氏を迎え、学校の進捗状況とルワンダでの拡張計画について協議。
- 13日、カガメ大統領は、YouthConnekt アフリカサミットにて国内およびアフリカ大陸からの9000人以上の若者と交流。ルワンダ政府は、国連開発計画（UNDP）と協力し、YouthConnekt アフリカサミットを主催し、今回で5回目。今年のサミットは、人的資本と社会経済開発を加速させるために、アフリカ大陸の若者の回復力を構築することが目的である。

- 17日、第145回 IPU 総会終了時に、「より強靱で平和な世界に変えるための、ジェンダー平等とジェンダーに配慮した議会に関するキガリ宣言 (Kigali Declaration Gender equality and gender-sensitive parliaments as drivers of change for a more resilient and peaceful world)」を採択。
- 18日、ウガンダの大統領安全保障顧問であるムフージ・カイネルガバ將軍は、ルワンダへのプライベート訪問を終え、自国とルワンダの関係が良好なレベルであることを確認。
- 20日、ノルウェー警察は、1994年のツチ族に対する大量虐殺に関与した疑いでルワンダが指名手配しているフランソワ・ガサナ氏を逮捕したと発表。
- 20日、ルワンダ政府と国連は「すべての人のためのより良い、共有の未来のためのパートナー」というテーマの下、ルワンダの国連加盟60周年イベントを実施。
- 21日、与党 RPF (ルワンダ愛国戦線) の議長でもあるポール・カガメ大統領とファーストレディのジャネット・カガメは、2000人以上の RPF メンバーとともに、RPF 事務局政治会議を開催。
- 24日、東アフリカ立法議会 (EALA) が2022年10月24日 (月) から11月5日 (土) まで開催。
- 25日、セネガルの作家ボリス・ディオプ氏が1994年のルワンダの大量虐殺を扱った小説でノイシュタット2022年国際文学賞を受賞
- 25日、カガメ大統領は、25日から27日までキガリで開催されている世界モバイル会議 (MWC) のオープニングで、99カ国から2千人以上が参加する中、デジタル変革は大陸の誰もが包括的に恩恵を受けるべき触媒の力であると述べた。
- 26日、ブルンジの国際関係担当大臣は、25日にルワンダとの国境を開いたが、キガリが2015年から拘束しているクーデター計画者の身柄引き渡しを求めるブルンジ政府の意向は継続と発表。
- 27日、カガメ大統領はルワンダを訪問中の中央アフリカのアルシャンス・トゥアデラ大統領を迎え、中央アフリカの政治や、治安、統治、経済開発など様々な分野での協力について議論したと発表。
- 27日、アフリカ大湖地域情勢に関する安保理会合で、国連大湖地域特使はコンゴ民主共和国 (DRC) 東部の武装集団の活動継続に懸念を示す一方、紛争解決のための地域内国家間の複数の協力的努力に歓迎の意を表明。
- 28日、カガメ大統領はモザンビークを訪問、ニュシ大統領と二国間の協力分野について会談。

- 28日、RDF（ルワンダ国防軍）はルワンダ平和アカデミーにて、ルワンダと米国間の相互教育・文化交流プログラムの下でルワンダ滞在中の米国議会スタッフの訪問受け入れ。
- 29日、M23がコンゴ民主共和国東部キワジャ及びルチュルを占拠。
- 31日、ルワンダはコンゴ民主共和国によるルワンダ大使の追放決定に遺憾の意を表明。コンゴ民主共和国の状況悪化を監視するため、ルワンダの国境警備隊は、引き続き警戒態勢をとっている。
- 31日、カガメ大統領は現在 ICGLR（大湖地域国際会議）の議長を務めるアンゴラのローレンソ大統領の特使を迎えた。ローレンソ大統領は、ICGLRの枠組みでコンゴ民主共和国とルワンダの調停を行っており、2022年7月に制定されたルアンダ・ロードマップの適用により、キンシャサとキガリの紛争の平和的解決を図る努力を続けている。
- 31日、カガメ大統領、グテーレス国連事務総長とコンゴ民主共和国東部情勢について会談。ルバブとゴマの間の国境沿いで、コンゴの人々は、ルワンダがコンゴ民主共和国東部の戦争を誘発したと非難するデモを組織。ルワンダは、これらの非難は根拠がないとしている。

2. 開発協力

- 5日、第80回開発パートナー調整グループ（DPCG）が行われ、国家変革戦略（NST1、2017-2024）の実施における良好な進捗を認め、遅れている目標を達成するため共同での努力の必要性が強調された。
- 6日、ンダギジマナ財務・経済計画大臣はとウヤラ駐ルワンダ欧州連合（EU）大使は、ルワンダの気候変動に対応した農業に対する6900万ユーロの融資協定に署名。
- 26日、ドイツは、9,810万ユーロに相当する補助金を交付。これらはルワンダの中小企業への資金援助と、医薬品製造部門への支援に充てられる。両国の協力関係60周年記念行事の一環として発表された。（The New Times）
- 28日、ルワンダ政府は第二次都市開発プロジェクト（RUDP II、2021-2025）に着手。キガリ市と6中核都市における統合都市計画を強化する計画。世界銀行が資金提供するRUDP IIプロジェクトは、国家変革戦略（NST1）およびビジョン2050に沿って実施されている。

3. 経済

- 先月30日、ルワンダは、アフリカ大陸自由貿易地域（AfCFTA）協定に基づく商品であるコーヒーをガーナに輸出。ルワンダは、AfCFTAのガイド付

き貿易に関するパイロットフェーズに参加する7カ国のうちの一つ。
AfCFTAにより、貿易業者は加盟国間の関税削減の恩恵を受け、貿易円滑化
やサービスといった政策分野をカバーすることができるようになった。

(The New Times)

- 7日、ルワンダはIMFによる Resilience and Sustainability Trust(RST)資金にアクセスする最初のアフリカ諸国となる予定。気候変動に対する回復力を構築促進のため、最大3億1000万米ドルの譲許的資金を利用することができる。
- 11日、ブルームバーグ・テレビジョンは2023年にアフリカでの放送を拡大し、ヨハネスブルグ、キガリ、ラゴス、ナイロビからのライブ報道を追加して、同地域からのニュース速報と分析を強化すると発表。ルワンダ開発委員会もブルームバーグが首都キガリにスタジオ開設することを歓迎。
- 17日、ルワンダ航空は、物資や商品の輸送を容易にするため、1ヶ月以内に貨物機を装備すると発表。
- 18日、ルワンダエアーは、2022年11月6日より、ロンドン・ヒースロー空港とキガリを結ぶ直行便を週4便就航予定。

以上